

## 「原因不明の肺炎」と主張していたが…米国「中国、コロナ発表2週間前に分析完了していた」

2024/1/18 中央日報

中国が新型コロナウイルス感染症（新型肺炎）について発表する2週間前に、すでに発生原因が「SARS-CoV-2」ウイルスであったことを認知し、遺伝子分析まで完了していた事実が明らかになった。この時、中国当局は武漢で続出している肺炎について「原因不明」という立場を取っていた。

ウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）は17日（現地時間）、米保健福祉省が新型コロナの発端について追跡している米連邦下院エネルギー・通商委員会にこのような内容の文書を提出したと報じた。

この文書によると、中国北京のある科学者は2019年12月28日に新型コロナウイルスの塩基配列分析資料を米国立衛生研究所（NIH）が運営する遺伝子データベースに登録した。

この時、中国は武漢で拡散中の肺炎について対外的に「原因不明」と主張しており、2020年1月11日に世界保健機関（WHO）に新型コロナの存在を初めて知らせた。中国が新型コロナ事態を公式化する少なくとも2週間前にはすでに新型コロナウイルスに関する情報を持って分析まで終えていたことになる。

新型コロナウイルスの塩基配列を分析して登録した研究員は北京にある中国医学科学院傘下の細菌研究所所属のリリ・レン博士だ。しかしレン博士はデータベース登録後、NIHが技術的な細部事項を要請すると、これに回答しないまま2020年1月16日に登録した塩基配列分析情報を削除した。レン博士は自身の発見を論文としても発表しなかった。レン博士が情報を提供しないため、NIHは2020年1月12日、別の出处から新型コロナウイルスの塩基配列情報を入手して発表した。レン博士が登録した塩基配列分析情報はその後、中国当局が発表した塩基配列情報およびNIHが発表した情報とほぼ同一だったというのが米保健福祉省の判断だ。

WSJはこの文書では新型コロナウイルスがコウモリなど野生動物から人間へ伝染したのか、研究所から流出したものは分からないと指摘する。ただし、中国が対外的に「原因不明の肺炎」を主張しながらも、実際には発生原因を知っていたのは明らかだというのが専門家の説明だ。

専門家は今回明らかになった「初期2週間」こそ、国際医療界が新型コロナウイルス拡散過程を把握して医療的に防御するために重要な役割を果たすことができていたかもしれないと指摘する。ウイルス学者のジェシー・ブルームは「中国政府が公開した情報を扱う時、正確性に対して慎重でなければならないという点が再確認された」と述べた。

レン博士は当時の状況を尋ねるWSJの電子メールに回答しなかった。中国大使館報道官は「中国は新型コロナウイルス対応策を科学に基づいて繰り返し点検してきた」とし「中国のコロナ対応政策は科学に基づいていて効果的であり、現実と一致する」と述べた。

エネルギー・通商委員会の委員長を務めているキャシー・マクモリス・ロジャース議員（共和党）は声明を出して「中国共産党が提供するいわゆる『ファクト』やデータなど、どんなものも信頼できない」とし「そういった情報に基づく科学理論の正当性に対して深刻な疑問が提起される」と指摘した。